

タイトル：みんな人生の主人公 ～自分史を作ろう～

キーワード

自分史
視覚障がい
心のケア

キーワードについては必ず3つ記入の事！！

特養、養護、軽費、ケアハウス、デイ、小規模多機能、GH、居宅老健、その他 いずれかを記載

施設種別	養護	施設名	江別盲人養護老人ホーム 恵明園
------	----	-----	-----------------

研究者 (取組に関わった方のお名前5名まで)	氏名	職種	備考
	①	山本亜美	生活相談員
	②	風間翔太	支援員
	③	大村悦子	支援員
	④	石岡浩司	生活相談員
⑤			

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人 北海道友愛福祉会	経営主体	社会福祉法人 北海道友愛福祉会
開設年月日	1971年2月1日	所在市町村	江別市
市町村人口	118,700 人	65歳以上人口 (高齢化率)	35,051 人 (高齢化率 29.5 %)
利用者定員数	110 人	利用者平均年齢	82 歳
職員数	59 人	職員数内訳	介護職 29 名 看護職 4 名
併設施設・事業	・短期入所生活介護 ・居宅通所介護 ・一般型特定施設入居者生活介護 ・居宅介護支援事業所 ・認知症対応型共同生活介護		
施設のサービスの概要	目が不自由で在宅生活が困難な方が視覚障がいによる孤立感や不便を感じない生活ができることを目指して、生活支援を行っている。		

発表の概要

<p>①取り組み課題 ご利用者は視覚障がいがある為、大変な苦勞をされてきました。ご利用者とお話をしていると、昔の苦勞を懐かしむように話してくれることがあり、話に引き込まれてしまうことがあります。そのようなお話をまとめて本にできたら喜んでもらえるのではないかと考えました。 また、職員は実施機関からの生活歴を読み、ご利用者のことを理解したつもりで支援を行っているのではないかと考え、もっと深く知ることでご利用者の理解に繋がることに期待しました。</p> <p>②具体的な取り組み 対象者：A様～平成29年3月に入所。83歳女性。全盲で帰宅願望ある。入所してまもなく、施設になじんでもらおうと関わっている最中であった。入所を納得できておらず、「だまされて入れられた」「ここには一時的にいるだけ」などという不穏な様子も見られていた。B様～平成15年に入所。77歳女性。全盲でメニエール病悪化の為、聴力も低下している。入所当初は施設内ではおおむね自立され、友人との交流が日課であったが病状が悪化した為、施設内で以前のような友人との交流は見られなくなりました。 ご利用者に現在までの人生を振り返っていただき、短編小説風にまとめて、それを墨字とデジ（視覚障がい者用の音声データ）にしてプレゼントする。自分史の範囲は生まれてから現在までとし、聞き取り方法は、ボイスレコーダーを使用する。一回の聞き取り時間は1時間以内。5月～7月までは聞き取りを行い、録音した話を文章化する。8月～プロットを作成し、章立てを行った。10月に原稿が完成し、ご利用者とご家族に内容を確認していただき、本作りとデジの録音作業を行った。録音は朗読ボランティア団体の「まちのあかり」に依頼した。 期間：平成29年5月～12月まで。 支援員2名、相談員2名の計4名。 ※費用 3000円ほど（用紙、製本テープ他）デジのダビング等は無償で行ってもらった。</p>	<p>③活動の成果と評価 A様は涙を流し感動してくれ、あの時は本当に辛かったこと楽しかった思い出を思い出し今は心配なく生活できているとの話があった。ご家族は、A様の思いがよく現れていて、感激したと言ってくれた。また、帰宅願望も職員が傾聴することによって、聞かれなくなってきた。 B様は鼻をすすりながら、とてもよく書けていると言ってくれた。ご家族は自分たちでも知らないエピソードが書かれており、B様からは聞くことが出来なかったことが知れてよかったと話されていた。 また、職員も普段の関わりでは知ることが出来ない事を知ることによってご利用者への理解が深まり、よりよいケアに繋がった。</p> <p>④今後の課題 どちらのご利用者も今までの人生でまだまだ辛かったことや楽しかったことなどの細かなエピソードがあるが、時間がかかるものなので、掘り下げることが出来ず。大まかなエピソードしか書くことができなかった。 昔のエピソードだと記憶が曖昧なことが多く、ご利用者が思い出せない部分はご家族に聞いたりご家族との連携が必要。 一人一人に時間がかかるため、一度に何人も自分史を作るのが難しい。その為、更なる創意工夫が必要である。 自分史を更なる完成品にするため、故郷の情報や、本人が実際に帰郷する等、ご家族や地域の協力も得ながら継続していきたい。</p> <p>⑤参考資料など 特記事項なし</p>
--	--

※「応募用紙」とともにメールにて【5月28日(月)】までにご提出ください→ roushikyo@dosyakyo.or.jp まで。